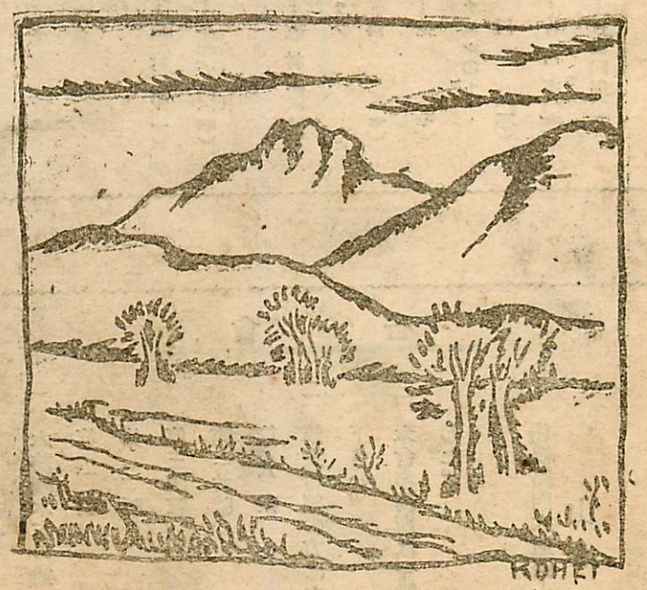
山とスキー



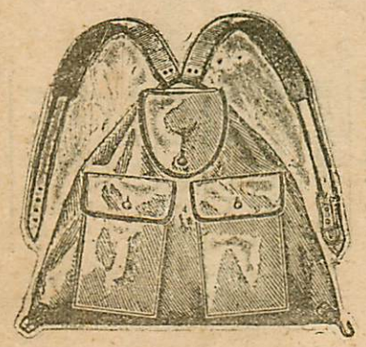
第七號

大正拾年七月一日第三種郵便物認可大正拾年九月廿六日印刷同年十月一日發行

THE JOURNAL
OF THE
ALPEN-SKI CLUB
VOL. 1 — NO. 7 —OCT. 1st. 1921

大正十年七月一日第三種郵便物認可
大正十年十月一日發行
（毎月二回一日十五日發行）

山とスキー　第七輯　定價一部金拾錢



登山に必要な

登山服
リュックサック
テント
アルペンストック
水筒——飯盒
火の素——其他

豐富に準備してあります

小樽
梅屋運動具店

ベルナー・オーバーランドに於ける日本登山家

理學博士　坂村　徹

數日前の新聞紙上に、端西ベルン電報として日本青年登山家横巻某がアイガー（八月號に寫眞あり）登山に成功し、外人登山家を驚かしたと云ふ事が出てゐた。自分は、外國電報にして迄騒がれる、日本登山家が今、端西アルペン地方に居るとすれば槇有恒君より外にはないと信じてゐるので、横巻と云ふ名について更に考へなほして見ると、成程これは洒落にしても面白い間違である。槇君の名はベルナー、オーバーランドに於ては Yuko Maki として廣く通じてゐる。この Yuko が Yoko となり、これが Maki と會せられて横巻と云ふ字を當てしめたのだと云ふことが分つた。

昨年の九月、吾々同輩三人の非登山家共が、槇君の登山根據地たるグリデルワルドへ押掛けて行つて大變世話になつた當時から丁度滿一年に相當する自分は今、槇君に關するこの報道を得て一層、思ひ出深く君の端西アルペンに於ける行動の一端を紹介して、日本登山家が已に歐州の山岳家から注目の的となつて居る事をお知らせしたいと思ふ。

槇君は一昨年の冬、英國から端西に來るや否や、すぐに雪のグリンデルワルドの里へ行つて盛にスキーをやつて居た。此村は丁度、ベルナー、オーバーランドのユングフラウの連山が絶崖をなす北側の眞下になつてゐる所で、アイガー、ミョンヒ、ヴエッターホルンは眼前に迫つて聳ゑて居る。昨年の登山時期が來るまで、此等の岩山に夜晝となく唸るラビーネの響きは如何許り君の腕を鳴らしめたか知れない。

春の五月が來て、アルペンの麓の雪が融けて野生のサフランが可憐な花を殘雪の間から擡げ始め、ヨドラーの里謠やホルンの反響が夢の樣に聞える樣になつた時、同君は山の地理、携帶品等登山家として必要な準備を全く科學

第七號目次

記事

ベルナー・オーバーランドに於ける日本登山家……板村徹（一）
スキーの歴史……平井左門（四）

圖版

グリンデルワルド……板村徹（三）
ユングフラウヨツホよりユングフラフ　同　（七）
アイスメーアより……同　（七）
グリンデルワルドウンテルグレツチエルの上　同　（一〇）
サガロ岳……竹内亮（六）
東京附屬中學の天幕生活……目黒四郎（八）

會告

一、本誌殘本左の通りであります

第一號	絶版
第二號	殘部僅少
第三四號	絶版
第五號	殘部僅少
第六號	殘部僅少

二、講讀希望の方はなるべく前金で御注文下さい。

三、本會事務所は今般左記の所へ移轉しました。

札幌區南大通西十一丁目乙二四號
山とスキーの會

的に研究して居た。そして、六•七•八月と登山時期になると君の活動は開始せられて• ユングフラウ、ヴエツターホルン•ミヨンヒ•アイガー•フィンシユタアーホルン等に、君の信頼する案内者と共に大成功を納めた。當時も瑞西の新聞は日本青年登山家の成功として可なり精しい事を書いた其後、九月に同君の令兄、智雄君が英國より來るや、共にシユレツクホルンの登山に成功して昨年の登山を終つたのである。

斯如くしてベルナー•オーバーランドに於ける山らしい山の頂上は悉く君のピツケルによつて印せられたが、其地方の第二流の山や、日歸りの出來る位の山腹迄は夏の登山期の間、君は殆んど毎日の樣に出掛けてそのあたりの休憩所の人達とは大變昵近になつて、遂ひには之等の人達が君を山案内者と呼ぶに至つた位である。そして昨夏、殆んど毎日の樣にグリンデルワルドの里を過ぎる日本人の、アルペン•ツーリステンは皆槇君の世話になり、大いに山に對する趣味を涵養する事が出來る樣になつた。

又、君は此グリンデルワルドの村の純僕な人達と勉めて接して、その山の人らしい所を理解せんとした。夏に多數の英國登山家が來る此の村では登山は一種のスポートと視られ、登山の成功は一種の誇とせらる。昨夏、君がアイガーに登つた時などは和蘭から來てゐた或る紳士は君の行動を始終、望遠鏡で注目し、無事下山した時は非常に喜び迎へ、日本人の敬畏すべきことを繰返したと云ふ事である。

勿論、御世辭は多少あるにしても此を聞いて誰か不愉快な氣持になるものがあろふ。

東洋の事情には全く無智な歐州人には日本人にはまだ登山を以て一の高尚な趣味とする樣な餘裕は迚もありはすまい、と考へて居る矢先、槇君の此の懸値のない登山能力は彼等には全く意外であり、又同時に「充分なる理解は、あらゆる方面から」と云ふ意味に於て、日本人の能力、趣味理想を彼等に紹介するに如何程役立つてる事かも知れぬ。

君の今回のアイガー登山は第二回目かと思ふ。同君の令兄、智雄氏が朝日新聞の記者に語られた通り君の今回の企ては今迄人のやらなかつた口から登る事に成功したものと思はれる。

尙同君は熱心なスキー家である。グリンデルワルドやザンクト•モリツツに於て盛んにスキーをやつた。「山とスキー」!!、それは偶然にも同君の最も好む所である。此の偶然の一致の理由の下に、自分は決して山岳家ではなく又登山家の知識は全く零であるにもかゝはらず、僭越ながら此の雜誌に日本の登山家が端西アルペンで如何程、活動して居るかを紹介させて貰つた次第である。

君は今、再びヴエツターホルンかモントローサの登山に出掛けたか知ら?、或は昨秋共にジネヨブの湖畔から遠く眺めた彼の優美なモン•ブランへか?、同君が無事歸朝の上日本の山岳研究に充分なる貢献あらむ事を切に希望してやまない。(大正十年九月十六日。仲秋の月の夜)

ドルワルデンリグ

スキーの歴史

平井左門

スキーの記錄に就きては Procopius (526—559 A.D.) 時代に表はれて居る。Chrichton Somerville 氏は雪國の發明の天才を有する或る者が「スキー」なるものを創作したのだと考へてゐる。

Pattens (或る一種の履物) は古い時代から傳つて居て、アルメニヤ人はこれを馬用に使用した。スカンヂナビヤでは雪上の交通具に使用した。各地に各種に發達せるものであつて、今日の Schnee-reifen (スイス) Truger (ノルウエー) Snow-shoes (カナダ) 等は明に Pattens の進化と推察せられる。

尙氏は『「スキー」の原型はベーリング海峽に住居せる民族 (Chukchis) か、又はその類似のオコック海附近の民族の創造せるものらしい。板が皮で包まれて、細長く構造せられて、移住の際使用せられたらしく、民族の發展と共に木が最も適すると見こめられ、皮より木に推移せられたものならん』と推測してゐる。然し Fowler 氏は「Pattens は屢々皮を被せられたもので「スキー」と關連せしめる必要なく革は原殆民族によつて有らゆる方面に使用せられたるもので、板に皮を張つて履いて居たのを、皮を取り去つたとは直に同意し得ず」と言つて居る。又一方丁抹の歴史家 Saxo Grammaticus 氏が千二百年頃に Skid finner 族について最初の報告をなして、此等の種族は特種の橇 (Carriage) を用ひて登山し溪谷を下降して云云と論じて居る。

一千六百四十四年に出版せられたる Saxo の記者 Stephanius の本の挿圖は、「スキー」の圖として古いものであるが、皮製の如くにも見受けられるが革製らしくない。

「スキー」が Pattens よりその端緒を發して居るものでないと言ふ見解は「スキー」なる言語そのものからでも主張が出來る。Fowd 氏は『此の言語たるや Gliding 又は Sliding の意味ではなくゲルマン族の言語 (Gothic Skaidan, German Scheiden, Latin Scidene (Scidi) の數に屬するものであつて、正しく Splitting なるべく「スキー」を眞に製作する時には木材を裂いて作るべきものであ北つて古代方民族の ski は「薪を焚く時木を裂く」と言ふ意味よりして第二義に Snow-plank 又は「スキー」と言ふ事に適用したものである』と論じて終りに最も簡單なるものは大底の場合最も古いと言ふ事は原始器具の進化を論ずるに當つて、最も良い法典であつて裂かれた木の小片は一番簡單なものである。故に「スキー」は木の Patten に依つて進化し、皮を被せられ、細長くせられて遂に革を取り去られたものならんと主張してゐる。此の點に於ては Fowler 氏の說が穩當に思はれる。

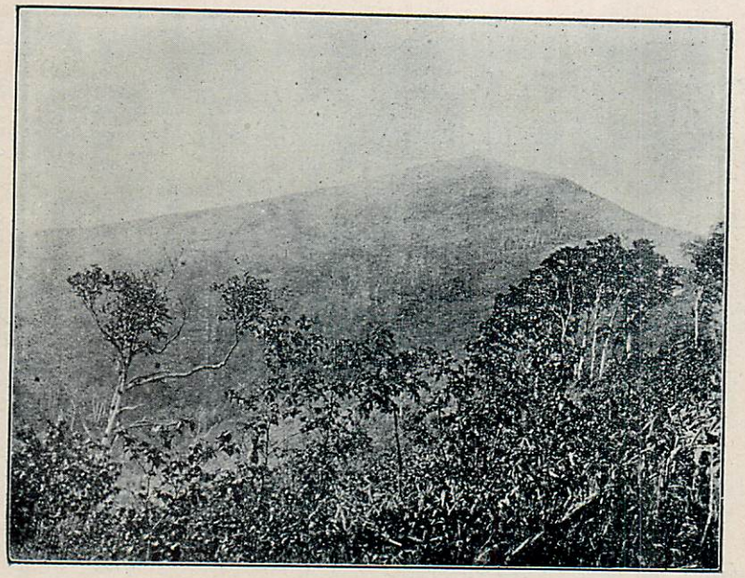
Andreas Hanson 氏は『中央亞細亞より起つた Finno-Ugrian 族は北東フインランド北西ベーリング海峽迄發展せるものならんと論じ、其の ski なる語が ski に近親の關係を有するもので——「スキー」なる意味を表はすもので Patten を意味しない——系統を等しくせるものは現今、中央亞細亞よりバイカルに及んで發見さることを得』と言つてゐる。T.Marschal 氏はこれに贊成をして、『これ等民族の間には紀元前數千年に「スキー」なるものが知られ (スカンヂナビヤ民族が現在の地に達する以前に) 旅行、行商、收稅、戰爭殊に狩獵に「スキー」を使ひたり』と述べてゐる。

E. C. Richardson 氏は原語學上の事實は必して、結論的のものではない。私は「スキー」はスコットランド人——多分スコットランドの工師——によつて發明せられたるものであると言ふ自分の好きな主張を信じて居たい。と言つて居る。

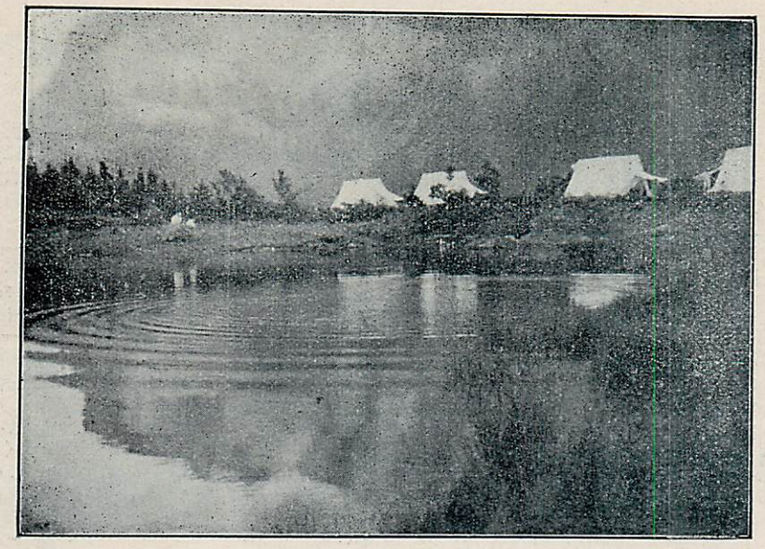
Fowler 氏によると「スキー」滑走の多くの例證が北方文學に見受けられる。Njord 神に嫁入りした北方の國の神々內の巨女 Skai が夫神や海濱の神境を棄てて自分の愛でにし山に歸つたと言ふ神話がある。この女神は (Goddess of ski) として知られてゐる。オルケコイの Rognvald (died 1159) の詩やフィンランド人の詩に「スキー」を歌はれて居る。

スウエーデンに於ては「スキー」は戰爭の爲めに極めて古くから使用せられたるもので『Sverre 王がオスロの戰 (一二〇〇年) に於て「スキー」滑走者よりなる中隊を作つて敵を偵察せしめた』と記錄せられて居る。近代に於て Olaus Magnus 氏が一千五百五十五年頃諸威旅行記を出版してその內に狩獵や民族の事に付いて面白い記事と共に挿圖が入つて居る。狩獵の挿圖を見ると羚羊に乘つて居ないものは上方に弓形になつた楔形のものを履いてゐる。踵より後方のティルに相當する部分が殆んで無い。はたして目的に適ふか否かを一見頭に浮んで來る圖であるが、所謂挿圖であつて、その時の眞の物を窺ふ事が出來ない。文中に flat board curved in front like laws と書いてゐる。

要するに「スキー」なる語原及びその發生や起原に付いては、各人意見を異にして歸一する所は殆んで見られないが、中央亞細亞に於ける降雪地方の民族によつて古く創造せられてスカンヂナヴィヤ半島に輸入せられ發達せるもの



サ　オ　ロ　岳



東京附屬中學の天幕生活　（長野縣平穩村琵琶池附近）

ユングフラウヨホツよりユングフラウ

りよアーメスイア

ならんと大体に於て意見の一致を見る事が出來る。そしてその創造の原因たるや當時その民族の必要より由來せる事は疑を差挾む餘地のない事である。

歐州大陸に於ける「スキー」術の著者は獨逸人の Valvasor（千六百八十九年）を以つて嵩矢として居る。其の著述の中に『Krain 地方（アドリヤチック海に近き墺國の地方）の百姓は其の後「スキー」を使用せない樣になつたがその當時「スキー」と親しんで居た（親しんだ理由は窺ふ事が出來ない）Krain 地方の或る部分殊に Auslerg に近き所では、私が見た事のない稀れな發明をして居る。彼等は二枚の板で厚さが三寸位巾は足の巾に等しくて長さ六尺のものを履いてゐる。そしてこの板は失端が上の方に曲げられ板の中央部には革が取り付けられて居て足を結びつけてゐる』と。そして尙氏は如何に「スキー」を操縱せられてゐたかも說明してゐる。滑降に降しては上体を十分後方に倒して、杖によりかかる。木や大きな岩の所では蛇行曲線でこれ等の障碍物をくぐり、障碍物がなかつたならば立派な姿勢で、最短距離を滑降する。その姿勢は恰度彼等が四肢や關節を持つて居ない樣に堅くなつてゐる。Bar Gaf, ja mit ganzer Gewalt と氏は書いてゐる。短い「スキー」を使用し蛇行狀に滑降し後方に身体を倒したことは、興味ある事で現今尙或る滑降者の姿勢に見る事が出來る。

又此の地方の住民は馴鹿の皮を利用することを知らずにゐて、下降の際の速力を減ずることを考へなかつたとも書いて居る。

尙近代になつて一千七百九十六年和蘭人の De Tong 船長が諸國へ航行せる紀行本の中に、「スキー」演技中の寫眞や「スキー」術を見る事が出來る。スキーの興味ある記事は Sir Arther De Capel Brook 氏の「ラプランド及びスウエーデンの冬」（千八百二十七年）の中に見られる。之に於て氏は『「スキー」は Skie 又は Snow-Skate に相當するものであつて、この道器具は土地の嶮阻な所では操縱容易でない。』『軍事上に於ては條件の良い日には五十里の强行軍をする事が出來る。諸威人の「スキー」は左右等長でなくて右足「スキー」は長い七呎、左足「スキー」は短い五呎のものを使用してゐる。「スキー」は横辷りを防ぐために裏面の中央に一條の溝を作つてゐる』とも書いてゐる。『杖に付いては熟練したものは杖を使ふ事が稀れで幇助として役立たしてゐる。』とも書いてゐる。

最近の「スキー」は實用化して來てスカンデナビヤ半島の到る所で軍用上又は運動用に使用せられてゐる。諸威に於ては地方的狀態に適する樣に特種な「スキー」が特別に發達してゐる。大体に於て非常に長く巾の峽いものは風で吹きつけられた硬い雪の平野に、短かくて廣いものは山間に見受けることが出來る。Telemarken 地方ではより良き「スキー」術を得るためにこの特種の「スキー」を改良しつ

つあつて、此の地方の百姓等は直滑降や廻轉や飛躍等に努力を拂つて、種族を維持し、他族と競ひ合ふために種々と工夫をしてゐたものである。然し現今此の事に關して何の記錄もなければ手掛りもない。然し地形が山岳に富み密森林帶のこの地方の事であるから短い「スキー」を使用せられて居てゐた事は想像するに難くない。この短い「スキー」は長い間他の地方にも使用せられたらしく、短い「スキー」の眞價を知られる以前から獨逸や瑞西に見る事が出來た。そしてジャンプ等は滑降中小高い所に出會した時一時雪面を離れて滑降を元通り續ける所から案出したものならんと思はれる。ジャンプと同じ樣に廻轉、遽止等も天才に富める「スキー」家が遇然に工夫して世人から忘れられてゐるとも考へられる。

一千八百六十年代に Weardale の鑛夫か仕事の往復に「スキー」を使用してゐたとの記事が一千九百四年の二月の T. P.'s Weekly に見えてゐる。この時分にクリスチヤニアに於ても「スキー」を初めた運動家の一集團があつた。一千八百七十七年 Christiania Ski Club が設立されて一千八百七十九年の初め頃盛大な會合を催ふして Huseby Hill で演技した。この時 Telemark の子供が出場して、今迄死物狂になつて杖に賴り生命無事に下降し終るのを視ふ有樣で演技してゐたのに反して、頂上から出發して勇敢に下降して滑降の終りに輕快な姿勢で雪煙をあげて滑降面に向つて遽止したり、又滑降中飛躍を試みて六七呎を雪面を離れたりした。この子供の演技を見た會象は驚異の眼を以つて眺めて、魅せられて仕舞つた。Swing と Jump とはこの時に知られたらしい。

一千八百八十三年の正月には Norwegian Ski Associatoin なる百三十名の部員を持つた「スキー倶樂部」が設立して四月五日には Huseby Hill で競技會を開いて飛躍と長距離競爭の一等者に賞品を與へた。斯うして「スキー」術は諸國の國民遊戯に進運して來た。そしてこの國民遊戯は体育、知育を啓發して現今に及んでゐる。この事は讀者の十分に知つてゐる所である。スキー術に於ても諸國民「スキー」術習得の平均は他國人の及ばない所であつて同國最優秀の「スキー」家は現今絕對的と言つてもよい程である。

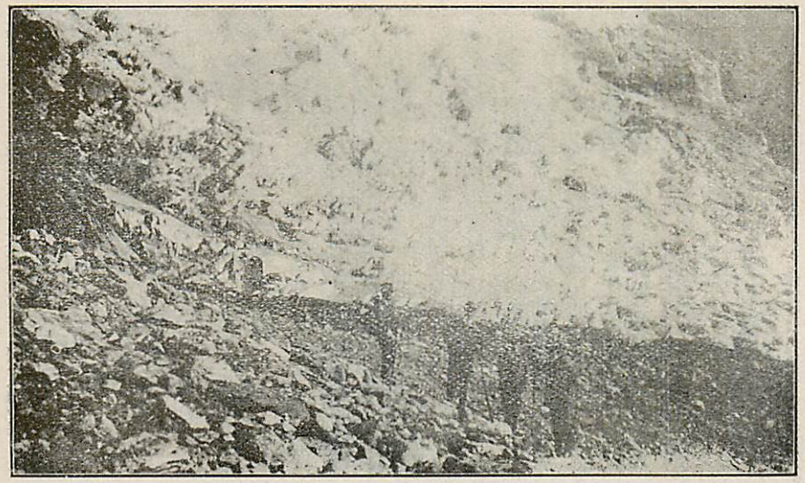
瑞典國に於ては諸國と同樣に古い時代から雪の郊野を横斷するに「スキー」を使用してゐた。然しこれを實用化して來たのは最近であつて一千八百九十二年 Swedish Ski Association が設立されたのが始まりである。然し乍らクリスチヤニヤ近傍からの影響を受けたことは拒まれない。

中央歐羅巴で初めて「スキー」滑走をしたものは一千八百七十三年 Arosa で滑降した、Herwig 氏である。一千八百九十一年以前に「スキー」滑走をせることは此處彼處の記錄に殘されてゐるが注意を拂ふ程のものではない。

一千八百年倫敦で Nansen 氏の First Crossing of Gree-

land が出版せられ、その翌年 Hamburg に於ても出版せられた。此の本は興味深く書かれて登山界に一新紀元を與へたものである。冬のアルプスはその當時まで全く未知の山であつて、洋樣等で登山を試みられた事は無いでも無かつたが、洋樣では過度の勞力を費すので到底不可能とせられてゐた。山岳家は Nansen 氏によつて「スキー」が冬季登山に適する事の暗示を得て、それから「スキー」はアルプスの雪面を上へ上へと滑行する樣になつた。一千八百九十三年頃には各種の登山家が山岳に「スキー」を試みて洋樣よりも優る事數等であるのを確めた。そして瑞西に「スキー」倶樂部なるものが陸續として設立された。

中央歐羅巴に於ける「スキー」競技會は一千八百九十三年維府の近くの Mürzzuschlag に開催せられて一千八百九十七年 Zdarsky 氏の Die Lilienfelder Ski-lauf Technik が公にせられた。Zdarsky 氏は畫家で哲學者で隱遁者で維府の近くのリリエンフエルドに唯一人住居して、密林のこの地方で俗塵から離れて幾年かの冬の雪を送迎してゐた。氏は初め諸威に「スキー」を注文したが手に入つたその「スキー」は長くて裏に溝が有り古式の締具を取り付けて居てリリエンフエルド地方では適する樣にも見ゐなかつた。誰をも師とする人の無かつた氏は「スキー」術を力學的に解剖して、締具の改良と「スキー術」の研究とに六年間沒頭して、上述の著作をなしあげた。



上のルエチツレグルテンウ。ドルワルデンリグ

（「スキー界」に科學的の根本を與へたのは氏と言つても過言でない）氏の倦むことの知らない努力は著作だけには終らないで、自己の創設にかかる「スキー術」の習得を乞ふものには熱心に傳授した。維府の人々は氏を「スキー」の果心とまで崇拜して門人は氏を尊敬すること他に例を見ない程であつた。斯かる次第であつたから維府人は氏の「スキー術」が全然新らしいもので、又諸國のよりも優れて居ることを主張する樣になつて仕舞つた。亦不幸にも氏までが自己の發明の最新と最良とを主張したのであつて　これがために諸國スキー派との論爭が起る次第になつたのである。その論爭は Black forest で最も載げしかつた。小年時代から「スキー」を履いて、一千八百九十七年 Bernese の高地横斷を決行した大陸唯一の登山家 Dr. Paulke 氏はこの論爭の第一戰に立つて諸威派の諸星を引率した。これに對して W. R. Rickmer 氏 Ski-ing for Beginners and Mountaineers の著者）はリリエンフエルデルスキーの有力なる闘將として Poulke 氏に當つた。熱心なるスキー家によつて論爭は益々熾んと成つて來た。谷向廻轉の技術は急峻な地形でリリエシフエルドの得意とする所であつて、初心者に必要な點から又特にアルプスに重要な技術である點から益々誇張に走つて行つた。諸威式スキーではこの點に付いては遺憾ながら不十分であつてリリエンフエルデルスキーによつて欠點を補ふ所が少なくなかつた。この喧噪の内に一千九百五年が來り Norwegian Ski Association は Hassa Horn 氏を代表者として維府に送つてゾダルスキー氏と意見の交換をなさしめた。ホルン氏とゾダルスキー氏とは互にその美點を見出して親友の域にまで到達した。ゾダルスキー氏の門人達はホルン氏の平易な勇壯な滑降に對して啞然たる有樣であつた。ホルン氏はゾダルスキー氏の熱心な意見と初心者に敎ふる方法の懇篤なるに敬意を拂つてクリスチヤニアに歸つた、維府にて得たる總てのものを發表した。斯くして維府の論爭は二氏によつて痕跡を絶たれ「スキー」の平和が到來するに至つたのである。

一千九百年には Italian Ski Club が Tourin に設立して一千九百三年 English Ski Club が Davos に出來た。これより以前に St. Moritz にスキー倶樂部が有つて時々報告を發表してゐたが殆んど有名無實のものであつた。Davos Ski Club は一方「諸威スキー」を輸入して種々の旅行を爲して、部員を分類したり、積極的に研究し出したのである。この年に Ski Club of Great Britain が表現して「スキー」には如何に、何時又何處に於て適當なるかを報告して忠實な研究を續けた。倶樂部の旅行競技會が開かれて年鑑や諸種の報告まで出版して一ケ年の内に部員が二倍になつたのである。これが導火線となつて英國にはスキー倶樂部が簇出した。

オーストラリアでは又 Sydney の近くの Kiandra にス

キー倶樂部が設けられて亞米利加では各種のスキー倶樂部が出來た。亞米利加の倶樂部の多くは諸國式スキーを輸入せるもので飛躍を唯一のものとしてゐた。そして職業化された考さへ見る樣になつたのである。

こうして最近「スキー」の集合が盛に催されて一千九百四年には Swiss Ski Club (S.S.V.) が設立して六十の瑞西の「スキー倶樂部」を統一してその人數實に三萬人に達した。又獨逸にあつては German Association なる倶樂部は一万三千人を有して、墺國は六千人の倶樂部員があつて獨墺が結合して Mid European Ski Association (M.E.S.V.) をこの翌年の一千九百五年に作つた。

斯くの如くにして「スキー」熱は歐州の到る所に彌漫して、スキー家が益々多くなつて、各倶樂部の活動は凄じい熱で、人の和こ地の利こを極度に利用するに到つた。この時に到つて俄然歐州大戰爭が勃發して各國民はこの動亂に危く、蹣跚けて「スキー」は軍用に折々使用せらるゝの外普通スキーは頓に衰弱の狀態を示すに至つた。大戰中普通スキーが如何なる狀態に有りしかを最近の二三冊の本にて窺ふ事が出來るもそれは十分でない。戰爭後のスキー界の大勢を知る事が出來たら、括目に價するものかあるであろうと思はれる。

スキーの歷史殊に歐州に於けるスキーの歷史は數なきスキーの書籍から漁らねばならない。只今私の讀みうる本の内では E. C. Richardson: The Ski-runner, Henrey Hoek: Der Ski の二冊だけが歷史に付いて可成り詳しく書いてゐる。然し内容は二冊とも同樣であつて差異を見こめる事が出來ない。私は初め後者を讀んで、二回目に前者を讀んだ。私はこの原稿を書く前に後者を忠實に譯さうかこも思つたが、面白くないしするから中止した。それで The Ski-runner を讀んで行つて Der Ski から得た知識こ混入さしてこの原稿を書いた。だから内容こ言ひ筋道と言ひ The Ski-runner こ少しも異ならない。が譯こ見れば不忠實になるし、二つを讀んで取捨したとすればあまりに The Ski-runner に賴り過ぎてゐる。

一寸、おことわりを申して置く。

追々スキーの噂が出る樣になりました。

本年は工場の設備を新にして木部、金具其他附屬品共優秀品の製作に苦心してをります。

相變らず御愛用をお願いたします。

幌札

小谷運動具店

電話一五六八番　振替小樽七九六四番

大正十年十一月十日發行　大正十年十一月十九日納本印刷

（毎月二回一日十五日發行）

定價一部金十錢

編輯兼印刷者　板橋敬一

發行者　加納一郎

發行所　山と雪の會

札幌區南大通一丁目十四

印刷所　札幌印刷株式會社

札幌區北一條西二丁目

振替口座小樽八四九五番